

## 「100歳時代と川口慧海」

大阪南海線の普通電車に乗ると七道と言う駅があります。七道駅の前にはチベット探検の河口慧海の像がある。

ヤギを連れてこじきの様に歩く異様な像である。

ところが最近古本屋で「**仏教の長生不老法**」河口慧海著を見つけ、入手しました。

仏教にのめりこみ、仏教の神髄を求めて誰も行かなかったチベット旅行を敢行した慧海が「**人生を長く生きる**」意味を、どう考えていたかを知りたくなって、読んでみました。



明治時代に鎖国で日本が入れなかったチベットに中国人と偽って入り、想像を絶する苦難の末に仏教の経典を持ち帰ったと言います。

解説によると河口慧海は 1866 年、**和泉国堺に樽桶製造業**の家に生まれ、職人に学問は要らないと、小学校を退学させられた。

しかし勉学の急抑え難く、夜学に通い 15 歳の時信貴山の毘沙門天で 10 年間修行した。

その後上京して哲学館(現在の東洋大学)に入学、その後**黄檗宗五百羅漢寺**で得度し、慧海と名乗る。

チベット語研究と**チベット大蔵経**入手の為チベット行きを計画し、明治 30 年神戸を出発し鎖国のチベットを探検する事になる。

## 「川口慧海と長生法」

「世間的不老長生」では

1) **先祖からの業の力**によって普通の生活をしていながら、長生きするもの。

世間には別に不老長生について深い注意を払わず、普通の生活をしなが、いつまでも若く壮健で、80歳、90歳、百歳の長寿を保つ人が都会より田舎に多い。

それは前世の業力にくわえ、周囲に新鮮な空気が満ちていたり、生活が単純である事等や自然に運動する事などの事情が、壮健を増進している。



同じ生活の人でも短命なひとがいる。この原因は前世からの業の力によるものと考える。

2) **因果と自由論の調和**、

単に長生きしている人を見て、寿命は定まっていると思うのは**運命論**で、仏教では空にして、融通無碍に変化するものだから、**因果必然論と自由意思論**が円満に調和するものである。

天地の理法は因が果を生じ、果が因を生む、この考えでは短命の業を持つ人は、必ず短命になってしまう。しかし人間は自由意志を持っている。

仏教の哲理によれば、**因果必然の原理**は確然と行われながら、空なる

我々の意思は**自由自在**に選ぶ種子を無限の**種子を蔵する蔵識**より得

て、それを原因として、結果をあらわす。

こうして無限に相続していくのが、**因果必然の法則**である。



仮に短命の原因を持っていたとしても、その原因と結果が熟す以前は意識中には長命の種子を供えているのである。

従って空の一念を相続し、種子を養成し、不殺生、や功德を積んだなら、短命の因は発育せず、長命の結果をもたらすこととなる。

---

### 「川口慧海と薬草」

3) **衛生による不老長生**、衛生とは健康に生活するように、生命を衛る方法を言う。

生命を守る方法を実行して健康を保ち、自然に長生することとなる。前世に極重の悪行のない限り、大抵の人は長命する可能性を持つ。

しかし多くの人は豪飲し、あるいは夜食し、淫欲したり、自身を磨滅するような乱暴を行い、自分の受けた命を無理に短縮して、早く死ぬ人が多い。

反対に衛生法を実行して、禁酒、禁煙して夜食や間食を廃して、適度の運動を実行を行えば、定命よりも長く生存する事が出来る。

4) **薬品による不老長生**、

これは仙家に伝わる**仙丹**等の靈薬によるものが多い。

民間にもあるが、民間の不老長生薬は、はなはだ怪しいのも多い。

インドで不老長生薬として、尊重しているものは、黄金を焼いて粉にしたもので、淫欲増進の効能があるもので、不老はあっても長生はおろか、かえって短命に終わる事が多い。

又馬の陽根を不老薬にしたものがある。これも不老が促進され、色欲をむさぼり行うがゆえに、命を縮めることとなる。

現今インドでやもめになった老人が、若い婦人を娶つてこれらの不老薬を用いて実行した結果、数年ならずして死んでいる。

中国でも不老薬として民間で売っているものは、たいがい春情促進の薬であると聞いている。

しからば民間で売る薬品中、真に不老長生の薬はないかと言うと、漢方医書の「新氣存亡論」にヒントがある。

---

### 「川口慧海と漢方医薬」

漢方医書の「新氣存亡論」には次の様な表現がある。脈の中に力があるのが大切だが、それは強健ではなくて、中和の力を言う。

脈は柔軟な中にも力がある。これが脈中の神である。そして目の光は精彩で光沢があり、言語は清朗にして心は乱れない。

筋肉は枯削せず、呼吸は乱れず、大小便も順調である。されば神が存在していると言える。この神を養えば不老長生となる。

それを養うにいかなる薬を用いて良いかと言うと、「景岳全書」には何の薬も示さず、「知慎」一心が隅々まで行届く一をもって最上の良薬としている。

記述している現在新型コロナウイルスが広まり、外出規制がされ、いかに身を守るかが難しい状況にあります。

慎を知れば身を守ることと害することとの別を知り、とるべき行為はとり、捨てるべき行為は捨て去ることが正確に出来る、これは仏教の精神とも合致している。

そうすれば精神を狂乱させるアルコール毒を全身に満たす酒を飲むことは出来ない。又身体のもっと大切な精であり宝である精液を見だりに消費する事は出来ない。

同書の「先天後天論」にはこう説いている。先天とは生まれる前の事で、定命の定まっている事をさす。

後天とは生後自分の心によって生育していく事で、先天の定命もその行為によって変

性する事である。先天的に強厚なものは長寿であって、先天的に薄弱なものは短命である。

---

### 「川口慧海と培養」

先天的に強厚なものは長寿であって、先天的に薄弱なものは短命である。とは言え後天的によく注意して、**心身の培養**よろしきを得る者は、短命な者も長寿となり、長寿者はなお長寿するのである。

これに反して己の身に対して不注意であって、自身の身を断ち削ぐがごとき行為をする者は、先端的長寿と定まった者も短命となり、短命の者はなお短命になるのである。



それであるから先端的に長寿であるからといってそれを特めればかえってその強健を失って、短命になるのである。

又先端的に薄弱であって後天的に弱い者でも決して失望すべきものではない。ただ**慎を知れば**、よく先天にもまた後天的な習慣にも打ち勝つ事ができる。

まず慎について言えば情志を慎んで淫らな事を思わなければ、心神を保つ事が出来る。寒暑を慎んでその適応する道を知れば、肺気を保つ事が出来る。

酒と女色とを慎むと、**肝臓、腎臓**を保つ事ができる。暴飲、暴食、間食を慎む者は**脾、胃**を保つ事ができる。

生を養うには楽しみをもって行ふべきで、その楽しみとは**善**を行ふよりほかに勝ったものはない。この善行の福をもって生を保って長生すべきである。

不老長生法は、**慎を知り、善を行い、精を保つ**と言う三事をもって悦楽して暮らす事が主となっている。薬品や滋養品を勧奨しておらぬ。ただ**悦楽が最上の薬品**であって、その楽しみを為真に願うのは善を行ふ事にあると説明している。

2020年6月16日 大手前31期生 上田ヤマト